

# 長期間の高温に対する農作物等の技術対策

## 【野菜】

### 1 高温の影響

全体的には、生育停滞や枯死、品質低下、乾燥による害虫の多発が予想される。施設葉菜類では、葉先枯れ、生育停滞の発生が、施設果菜類では、着果不良や乾燥による尻腐れ果等の発生が懸念される。

### 2 対策

#### <共通>

- (1) かん水は、少量・多回数を基本とするが、過剰なかん水はかえって根傷みを招く恐れがあるため注意する。
- (2) 病虫害は、少発生時の防除に努める。

#### <施設野菜>

- (1) ハウスの妻面やサイド、肩部を大きく開放して換気に努め、ハウス内の温度上昇を抑える。
- (2) 換気扇や循環扇を活用して強制換気と外気導入を図る。
- (3) 寒冷紗による遮光や遮光剤の塗布により、ハウス内の温度上昇を抑える。
- (4) 施設青ネギ、軟弱野菜のかん水は、晴天日の早朝に表層から3 cm程度が湿る程度とし、夜間は地表面が乾くことが望ましい。特に生育後期の多かん水は軟弱徒長の原因となるため留意する。
- (5) アスパラガスは、蒸散量が多くなるため、土壌が乾燥しないようかん水に注意する。
- (6) 果菜類は、急激に土壌水分が変化すると病害発生や品質低下を招く恐れがあるため、かん水回数を増やす。

#### <露地野菜>

- (1) 光を反射するマルチ資材やワラでうね面を被覆し、地温の上昇と水分蒸発を抑える。
- (2) 露地果菜類は、水量が確保できる場合は夕方に畝間かん水を、水量が限られる場合は株元に手かん水を行う。

#### <イチゴ苗>

- (1) 鉢土の水分状況を常に観察（育苗床内の乾きやすい場所に特に注意）し、過乾燥で萎れないようこまめにかん水する。また、逆に過剰かん水による根傷みにも注意する。
- (2) 寒冷紗被覆（風通しは必ず確保する）により鉢土からの蒸散を防ぐ。ただし、

- かん水過多に注意し、曇天が続く場合は一旦除去する。
- (3) 高温による薬害を生じやすいため、夕方でも葉温が高い場合は、事前に葉水程度の少量の散水を行い、葉温を下げてから防除する。
  - (4) 雨よけ被覆を行っている場合は、妻部分を開放するとともに肩部分も可能な限り巻上げ、ハウス内の通気を促し温度を下げる。